

私たちの SDGs

有限会社 雄物川印刷

手元にも、記憶にも残る印刷物を。

「もったいない」から生まれた、

omonogawaブランド。

横手市の「有限会社雄物川印刷」では、全国の企業や行政からの委託による印刷業務を担ってきたが、数年前より自社商品を開発。ビンゴゲームなどを中心に話題を呼んでいるが、これらは、これまでの製作からの経験や、印刷の際の廃棄紙からヒントを得て生まれたものだという。これら商品について、専務の高橋和也氏に伺った。

しりとりビンゴ

ひとマスごとに異なる印字がされたビンゴカード「しりとりビンゴ」。これは、しりとりをベースにしたカードゲームで、言葉の最後の文字、例えば、「うま」だったら「ま」の字がカード内にあれば穴を開けられるというルールだ。「簡単に見えて実は奥が深く、子どもから大人まで楽しむことができるんです」と高橋氏。

同社ではこれまで、印刷通販業務として、オリジナルビンゴの製作を1000軒以上手がけてきたが、コロナ禍で「お家時間」が増えたことから、家でも楽しめるビンゴゲームができないかと考案したのがこの商品だ。

これを足がかりに、自ら文字を書き込むことができる「手書きビンゴ」、1枚のカードで繰り返し遊ぶことができる「もぐらたたきビンゴ」なども製作。これらのカードには間伐材紙を使用しており、環境にも配慮された商品となっている。



自社製品を作るようになってからは、レビューなどを通じてユーザーの声が聞くことができるようになったのも魅力の一つだという。

用紙一枚一枚の価値を高めて

そして、昨年4月に開発されたのが「スマホシタジキメモ」だ。ふだんの印刷業務の中で、大量に発生する印刷の余白部分。これまでは古紙リサイクルに出していたが、これを活用し、スマホを台にして書き込めるメモ帳を開発。中面の用紙はもちろん、表紙にも印刷時に出る厚紙の廃材を利用しているという。

「印刷物というとチラシ、パンフレットなど大量生産、大量消費の一時的なもので、今の世の中には逆行しているという思いがありましたが、自社製品を通じて、一枚一枚の価値を高め、手元にも、記憶にも残る印刷物を提供していきたいです」と高橋氏。

これらオリジナル自社商品は「omonogawaブランド」として展開しており、楽しみながら環境にも配慮できる商品が今後も予定されているという。

専務取締役

高橋 和也 Takahashi Kazuya

〒013-0481

横手市雄物川町薄井字神谷地218-2

TEL.0182-23-1641

<https://omonogawa.co.jp>

◎資本金 / 1,000万円

◎業務内容 / 印刷製本加工及び企画・編集・デザイン、販促用品企画・制作、オリジナルビンゴカード製作、印刷アドバイザー、広告代理、オンデマンド印刷

